

## 福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 3 月 15 日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇麦類◇

生育は 11 月下旬播きが 8 葉期で平年より 7 日程度早く、12 月播きは 6 葉期で平年より 3～5 日程度早まっています。茎数は平年より 10～20%少なくなっています。出穂期は今後の気温により左右されますが、11 月下旬播きでは平年より 5～7 日早い 4 月上旬の予想です。今後は排水口の手入れ等の排水対策を徹底し、「ラー麦(ちくしW2号)」、「ミナミノカオリ」は、穂揃期追肥の準備を行いましょう。

### ◇アスパラガス◇

昨年の暖冬傾向のため、保温開始は例年より遅い 1 月 6 半旬以降となり、出荷開始が遅れています。現在の出荷量は緩やかに上昇し、全体的に細茎が多くなっています。ハウスの温度管理はできるだけ夜温を高く、日中は 30℃を超えないようにしましょう。昨年的高温傾向により養分蓄積量が少ないことが懸念されるため、立茎時期の判断は出荷量の減少や生産物の太さ等で総合的に判断し、遅れないようにしましょう。

### ◇冬春ナス◇

2 月の日照時間は平年よりも多く、草勢が維持され、芽や果実の伸びも良くなっています。出荷量はやや増加傾向です。曇天後の急な晴れによる日焼け果のほか、すすかび病、アザミウマ類が一部で増加傾向です。温度上昇に伴い、芽のふきや側枝の回転が急激に良くなります。かん水や追肥の回数を増やしましょう。摘葉や芽の整理のほか、換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等の病害対策を行いましょう。

### ◇イチジク◇

12 月中旬加温の「とよみつひめ」は、展葉 12 枚前後で果実肥大期となっており生育は順調です。1～2 月の日照時間が長いため、生育は昨年よりやや早まっています。無加温ハウスでは発芽期～展葉期、露地栽培では未発芽です。加温ハウスでは夜温 17℃前後を確保し、日中は 30℃を超えないようにし、露地栽培ではアルミ蒸着フィルム等を用い、晩霜害対策を徹底しましょう。

### ◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」は小玉傾向で在庫量は少なく、2 月末で 7 割程度を出荷済です。果実糖度は高く、ブランド商品化率(糖度 13 度以上)は 84%とやや高いです。中国系品種は 3 月中～下旬には展葉期となるため、幼木の主幹をワラ等で包み、晩霜害対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1～2月の出荷量は、気温が高く推移し、生育が促進されて増加しています。春出し栽培（3～4月出し）の生育は概ね順調で出荷が始まっています。順次出荷量は増加する見込みです。品質向上、出荷期の省力化のためほ場の芽摘みを徹底しましょう。花の小輪化を防ぐため、開花期の夜温は12℃以上で管理しましょう。灰色かび病は、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

2月の肉牛枝肉単価は、長期間の高止まりで小売販売が鈍った影響で低下しました。省令価格で下げが大きかったものの、過去5年比の102～123%の水準は維持しています。子牛の防寒対策を継続し、舎内消毒、農場の衛生管理を徹底しましょう。